

ポール・エリュアール (Paul Éluard, 1895-1952)

略歴 (1920 年頃まで)

- 1895 12 月 14 日、サン＝ドゥニで生まれる。本名ウージェーヌ・エミール・ポール・グランデル。
- 1908 パリに引っ越す。
- 1912 学業で優秀な成績をおさめるも、肺結核となり、スイスのクラヴァデルのサナトリウムに 2 年間入院。この頃ガラと出会う。
- 1913 『初期詩篇』と題された最初の詩集を自費出版。同時代のサンドラールやアポリネール、レジェよりも、シャルル・ドルレアン、ヴィヨン、バンヴィル、ヴェルレーヌらの韻律の影響が強い。
- 1914 この頃から筆名で「ポール・エリュアール」を用い始める (エリュアールは母方の祖母の名前)。第一次世界大戦に看護兵として徴兵。
- 1916 野戦病院で多くの負傷兵を目にし、衝撃を受ける。第二詩集『義務』を発表。
- 1917 ガラと結婚。『義務と不安』を発表。チューリヒで『ダダ I』を創刊。同時期、バルセロナでピカビアが『391』、パリでルヴェルディが『北-南』を創刊。
- 1918 ガラが第一子セシルを出産。『平和のための詩』を発表し、ジャン・ポーランの目に止まる。
- 1919 ポーランの紹介でアラゴン、ブルトン、スーポーと知り合う。彼らが創刊した『文学』第 3 号に「雌牛」(本資料 4 頁参照)を発表。
- 1920 1 月 10 日、『動物たちと彼らの人間たち、人間たちと彼らの動物たち』を発表。この詩集から明確に自由詩型を用いるようになる。挿画はアンドレ・ロート。序文のマニフェストは前年 7 月に『文学』で発表。ツァラのダダイスムとオザンファンらのピュリスムの影響が見られる。2 月、ダダの雑誌『ことわざ』の編集を務める。9 月に『ここで生きるために』を NRF に発表。
- 1921 2 月、『生の必然と夢の帰結』を発表。5 月 13 日、バレス裁判。6 月ピカビアがダダから離脱。
- 1922 1 月、ブルトンがダダから離脱。3 月 18 日、『反復』(挿画マックス・エルンスト)を発表。4 月、ツァラが編集する『髭の生えた心臓』に寄稿。6 月 25 日『死者たちの不幸』発表 (挿画エルンスト)。
- 1923 7 月 6 日、ダダ離脱。

参考文献

Jean-Charles Gateau, « Paul Éluard », dans Michel Jarrety (éd.), *Dictionnaire de poésie : De Baudelaire à nos jours*, PUF, 2001, p. 232-238.

Paul Éluard, *Œuvres complètes*, M. Dumas et L. Scheler (éd.), Paris, Gallimard, 1968, vol. 1

Henri Sauguet, *Les animaux et leurs hommes*, 1925, <https://www.youtube.com/watch?v=g1bVgfQg9yk>

詩集：動物たちと彼らの人間たち、人間たちと彼らの動物たち（1920 年）

序文

私たちが良心の力を取り戻すことができますように。

若々しく生きた何人かの詩人たち、作家たちが、この力の復活を私たちにすでに教えてくれた。

私たちに何ができるのかを知ろう。

美も醜も私たちには必要ではないのではないか。むしろ私たちが気にかけているのは、いつだって力、恩恵、安らぎや野蛮さ、気取りのなさ、諧調だ。

これこれが美しいとか醜いとかを人に語らせ、態度表明させる虚栄心は、数々の文学的潮流によって醸成された誤ちや、その時代の感情の高揚、そしてそこから生まれた無秩序の原因となっている。

困難ではあるが、絶対的に純粹になってみようではないか。そうすることで、私たちは、自分たちを結びつけるすべてのものに気づくことだろう。

そして、あのおしゃべりな人たちを満足させるだけの不愉快な言葉、我らと似た人々の額についている冠と同じように死んでいる言葉、これを、変形させ、変化させて、私たちが共に交換し合える魅力的で真正銘の言葉にしようではないか。

私にとって、この意志をもっともよく示すのは、次の詩篇であり、長らくこれを巻頭詩にしようと夢見ていた。

Salon

Amour des fantaisies permises,

Du soleil,

Des citrons,

Du mimosa léger.

客間

自由奔放にきまぐれな愛

太陽の

レモンの

軽やかなミモザの。

Clarté des moyens employés :

Vitre claire,

Patience

Et vase à transpercer.

用いた手段の明確さは、

透き通った窓ガラス

じっと待つこと

そして染み渡る花瓶。

Du soleil, des citrons, du mimosa léger

Au fort de la fragilité

Du verre qui contient

太陽、レモン、軽やかなミモザ

壊れやすさの頂点の中で

ガラスは含んでいる

Cet or en boules,
Cet or qui roule.

この球状の黄金を、
この揺れる金色を。

P.E.

P.E.

LES ANIMAUX ET LEURS HOMMES

動物たちと彼らの人間たち

ANIMAL RIT

Le monde rit,
Le monde est heureux, content et joyeux.
La bouche s'ouvre, ouvre ses ailes et retombe.
Les bouches jeunes retombent,
Les bouches vieilles retombent.

動物が笑う

世界が笑っている。
世界は幸福で、満ち足りて、喜ばしげだ。
口が開き、翼を広いて着地する。
若々しい口が降り立って、
年老いた口が降り立って。

Un animal rit aussi,
Étendant la joie de ses contorsions.
Dans tous les endroits de la terre
Le poil remue, la laine danse
Et les oiseaux perdent leurs plumes.

一匹の動物も笑っている、
大げさな身振りで喜びいっぱい。
地球上のあらゆる場所で
毛並みは揺れ、羊毛は踊り、
鳥たちの羽は抜けていく。

Un animal rit aussi
Et saute loin de lui-même.
Le monde rit,
Un animal rit aussi,
Un animal s'enfuit.

もう一匹の動物も笑っている
自分とは遠く離れたところで飛び跳ねる
世界は笑っている、
別の一匹の動物も笑っている、
一匹の動物が逃げ出す。

CHEVAL

Cheval seul, cheval perdu,
Malade de la pluie, vibrant d'insectes,
Cheval seul, vieux cheval.
Aux fêtes du galop,
Son élan serait vers la terre,
Il se tuerait.

馬

ひとりきりの馬、迷子の馬
雨に苦しみ、虫たちにうち震える
ひとりきりの馬、年老いた馬。
陽気なギャロップで、
その躍動は地上へと向かっていき、
死んでいくのだろう。

Et, fidèle aux cailloux,
Cheval seul attend la nuit
Pour n'être pas obligé
De voir clair et de se sauver.

VACHE (1)

On ne mène pas la vache
À la verdure rase et sèche,
À la verdure sans caresses.

L'herbe qui la reçoit
Doit être douce comme un fil de soie,
Un fil de soie doux comme un fil de lait.

Mère ignorée,
Pour les enfants, ce n'est pas le déjeuner,
Mais le lait sur l'herbe

L'herbe devant la vache,
L'enfant devant le lait.

CHAT

Pour ne poser qu'un doigt dessus
Le chat est bien trop grosse bête.
Sa queue rejoint sa tête,
Il tourne dans ce cercle
Et se répond à la caresse.

Mais, la nuit, l'homme voit ses yeux
Dont la pâleur est le seul don.
Ils sont trop gros pour qu'il les cache
Et trop lourds pour le vent perdu du rêve.

困難に忠実な
ひとりきりの馬は夜を待つ
強いられないたくないから
見極めることや、逃げ出すことを。

雌牛 (1)

雌牛は連れていかれない
平たく乾いた草木には
気持ちのよくない草木には

雌牛を受け取った草たちは
絹糸のようにしなやかになるだろう、
ミルクの流れにも似たしなやかさ。

何もわかっていないお母さん牛、
それは子どもたちのお昼ごはんではなく、
草の上のミルク

雌牛の前にある草、
ミルクの前にいる子ども。

猫

人差し指一本だけ使うには
猫はまるまる太った獣だ。
尻尾は頭まで届き、
丸くなりながら、
気持ちよく触れ合っている

けれど、夜になると、人間はその瞳を見る
ほのかな瞳はただ一つの才能だ。
覆い隠すには大きすぎるし、
夢に吹く儂い風ほど軽くはない。

Quand le chat danse
C'est pour isoler sa prison
Et quand il pense
C'est jusqu'aux murs de ses yeux.

猫が踊るのは
狭い檻を遠ざけるため
考えるときは
瞳の映る壁にまで。

LES ANIMAUX ET LEURS HOMMES

人間たちと彼らの動物たち

...

HOMME UTILE

Tu ne peux plus travailler. Rêve,
Les yeux ouvertes, les mains ouvertes
Dans le désert,
Dans le désert qui joue
Avec les animaux — les inutiles.

役に立つ人間

君はもう働けない。夢を見るんだ、
目を開いたまま、手も広げたまま
誰もいないところで、
誰もいないところでもてあそばれる
動物たち——無用物たち。

Après l'ordre, après le désordre,
Dans les champs plats, les forêts creuses,
Dans la mer lourde et claire,
Un animal passe — et ton rêve
Est bien le rêve du repos.

秩序があり、混沌があり、
平らな野原には切り開かれた森がある
重々しくも透き通った海の中を
一匹の動物が通り過ぎていく——君の夢は
休息の夢にほかならない。

...

PATTE

Le chat s'établit dans la nuit pour crier,
Dans l'air libre, dans la nuit, le chat crie.
Et, triste, à hauteur d'homme, l'homme entend son
cri.

肢

猫は鳴くために夜に身を置いている
自由な様子で、夜に、猫は鳴く。
だが人間は、寂しい様子でその鳴き声を聞いている。

VACHE (2)

Adieu !
Vaches plus précieuses
Que mille bouteilles de lait,

雌牛 (2)

さようなら！
何本もの牛乳瓶よりも
貴い雌牛たちよ

Précieuses aux jeunes qui se marient
Et dont la femme est jolie,

貴いのは結婚する若者たちにとって、
その中でも女性は美しい、

Précieuses aux vieux avec leur canne
Dont la richesse est chair, lait, terre,

貴いのは杖を持った老人たちにとって、
その豊かさは肉、ミルク、大地のおかげ、

Précieuse à qui veut bien vivre
De la nourriture ordinaire,
Adieu !

貴いのは毎日の食べ物を食べながら
生きたいと願う人にとって、
さようなら！

...